

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2 年 5 月 15 日

事業所名 放課後等デイサービス ウィズ・ユー加納

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	5		
	2	職員の配置数は適切である	5	2		
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	2		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0	昨年6月よりジアイーンの導入や、除菌清掃を依頼し感染予防に努めています。	児童の通所前後の清掃の徹底は継続的に行います。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	0		
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	1	アンケートだけではなく日ごろからラインなど使いやすいツールを使用しています。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	1	ブログの更新もしています。	自己評価表はホームページで公開しています。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	6		外部評価は行っておりません。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	3		定期的に社内研修を行っていますが、今年度に入ってからには行えていないので、実施しています。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0		ツールの活用も一部始めています。今後すべてのご利用者様への拡充に努めます。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	0		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	2	新入植職員との読み合わせを再度行います。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	チームの取り組みと分担取り組みとしています。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	毎月、翌月のイベントを予め家族様に共有を行っております。	固定の部分と柔軟に対応するプログラムを組み合わせ対協しております。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	7	0		適宜行っておりますが今後より一層の組み合わせを検討しております。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	1		<p>昼からの出勤する職員もいる為、全職員での打ち合わせが難しい時には申し送りをしておりますが、できるかぎり全員がそろって検討しあえる機会を増やしたいと思っております。</p>
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	1		
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6	1		
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0	児発管および担当職員が参加しています。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	0	ご家族様を通して情報を共有、担当者との連絡も都度行っています	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	×	×		対象児童がいません。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	×	×		対象児童がいません。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	0		ご家族様からの情報提供及びご依頼により連携するケースも増えています。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	0	相談支援事業所様を通じて情報共有しています。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	0		各センターとの連携はご利用相談程度で今後より一層の連携が必須。保育所などとの交流も同様ですが、地域公園へ行った際などに交流があります。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	5		協議会へは東大阪市事業所会議に出席しています。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している				主に児発管が中心になるので、できる限り他の職員も参加するようにします。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0		
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	3		個別に対応させて頂いていますが、全職員がペアレントトレーニングの実施をできるまでは至っていない。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	3		対応を行う職員と行わない職員で差が出ている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	ラインや電話で随時、やり取りをしている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	7		今後、検討します。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0		
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7	0		
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	SNSの活用や筆談など	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	5		以前は、行っていたが最近はできていないので、実施する機会を設けたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	0		
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	1	備蓄職も準備している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	0	事前に、ご家族様へ確認を得ています。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	0		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	2	研修の参加をしている	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	3		対応が必要な場合には必須。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。